

B—90 着衣状態変動の要因について —女子の場合—

奈良女大家政 水梨サワ子

1. 1965年5月第35回日本衛生学会において発表した「冷房と着衣調節」の研究に関連して、年間を通じて着衣状態がどのような要因によって変動しているかを調査し環境としての被服の適正なあり方について検討する。

2. 冷暖房設備のある奈良県庁に勤務する女子職員全員（約300名18～55歳）を対象として1965年6月～1966年6月にわたって着衣に関するアンケート調査を毎月1回中旬におこない同時に環境条件を測定した。

着衣状態を数量化するため被覆面積と厚さを考慮して便宜上、着衣指数を定めこれを算出し、変動の要因として考えられる月・年齢・階（場所によるちがい）・温感・気分・訴えの6項目に関して二項確率紙による簡易検定をおこない、変動の要因を検討した。

3. 年間を通じて着衣指数が最も高度に有意であったのは月別による変化であり、次に年齢による変化がみられた。その他の階別や温感・快不快の気分・訴えの多少などはほとんど着衣状態の変動には関係していないことがわかった。着衣指数そのものについての報告は別の機会にゆずり、今後対象を男子や一般女子についてなど広めるつもりである。